

ヒルフェ通信(3月号) ❖ そっと寄り添いやさしくサポート ❖

「公益社団法人成年後見支援
センターヒルフェ」は東京都
行政書士会が社会貢献の
一環として設立した法人です。



◆葛飾区社会福祉協議会主催セミナーにヒルフェ理事・会員が講師として登壇いたしました

2月19日(火)ウェルピアかつしかにおきまして、葛飾区社会福祉協議会主催の『終活講座 第7回「任意後見制度」～将来の不安に備える任意後見の仕組みや有効な活用方法について～』が開催され、ヒルフェ葛飾地区リーダー田中健夫会員と後見事業部の黒澤常任理事が講師として登壇いたしました。

この終活講座は全7回で、生前整理や葬儀、家族信託、相続・贈与など、毎回色々なテーマで開催され、希望講座のみの参加も可能といった講座です。当日はあいにくの冷たい雨が降ったりやんだりという天候にも関わらず、30名ほどの方が参加されました。

前半は田中地区リーダーが、任意後見制度の概要を、成年後見制度の仕組みから任意後見契約の締結、発効、類型、終了までをわかりやすく説明されました。スライドを使い、まずは言葉による説明を、そしてその後にそれを図解化したもので示し、なかなか理解が難しい後見制度を一般の方にもわかりやすく工夫されていました。

後半は黒澤理事が、ご自身の相談例をベースとして、具体的に相談に来られた時から、どのように契約まで進めていくか、何をしたいのか、特にこの「何をしたいのか」は重要だということをお話しされ、どのような内容があるかなどを具体的にわかりやすく説明されました。死後事務委任契約について注意しなければいけないこと、参加者が気になる報酬についても家裁のサイトなどの例から具体的に話され、皆さんもうなずきながら聞いておられました。最後に、ご自身がこれからどういった生活をしていきたいか、任意後見受任者との信頼関係の大切さ、何をしたいかをじっくり考えると云った重要ポイントをあげてセミナーを終了しました。

質問も、ポイントをついた現実的なものが次々となされ、関心の高さがうかがえました。また終了後も個々に質問や相談に来る方もおられ、地区会員や理事が対応し、盛況のうちに終了いたしました。



◆「みちしるべ」について

「みちしるべ」はエンディングノートではありません。

ヒルフェで作成している冊子「みちしるべ」、皆さん、エンディングノートと思われている方も多いかと思いますが、エンディングノートではありません。

エンディングノートとは、「人生の終末期、死を迎えるにあたって、自分の思いや希望を遺された家族などに伝えるためのノート」と考えられます。確かに「みちしるべ」の内容にもそういった側面があるのは確かです。けれども主目的はそれではありません。

私たちが任意後見を受任した場合、ご本人の判断能力が低下して任意後見が発効すると、ご本人に代わっていろいろな判断が必要となってきます。そのとき、「ご本人はどうしたかったのだろうか？ どういう考えや信条をお持ちだったのだろうか？」と考えます。もちろん、受任者の段階でご本人との面談などでそう言ったことをうかがうことが一番良いのですが、ご本人の判断能力が低下する前に必ずしも十分な時間が取れるとは限らないというのも現状だと思います。

そこで、実際にそのような経験をした諸先輩方が、「こんなことを聞いておけたらよかった。」「これについてはどう考えておられたのだろうか？」「これまでどのような生き方をしておられたのだろうか？」など、ご本人がこうしたかったであろう判断に近づくために是非聞いておきたかった、必要と思われる項目を集めて作成したのが「みちしるべ」です。まさに、任意後見を行うにあたって私たちの「みちしるべ」となる冊子なのです。

また、ご本人にとっても、死に向かって準備するということだけではなく、過ぎ去った半生を振り返り、未来に思いをはせ、今を安心して生きるための「みちしるべ」となるものでもあります。近年では「終活」という言葉も定着し、実際にそのような準備をされている方、関心を持つ方も多いと思われます。一般の方向けに、みちしるべを使って成年後見関係のセミナーをする場合、タイトルなどに「エンディングノート」という言葉を入れるのは、一般の方に関心を持っていただくためにはやむを得ないかとは思いますが、けれど、セミナーの中で一言、エンディングのためではなく、今を、これから安心して生きるための「みちしるべ」であることをお伝えいたしたいと思います。そして皆様も是非、こういった経緯を心にとどめて「みちしるべ」をご活用ください。

